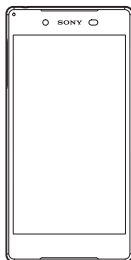
お願いとご注意

― 重要なお知らせ ―

XPERIA Z5

お買い上げ品の確認

このたびは、「Xperia™ Z5」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■Xperia Z5本体

■TVアンテナケーブル（SODAB1）

■クイックスタート
■お願いとご注意（本書）
■本体保証書

- 本機「Xperia™ Z5」のモデル番号は「501SO」です。
- 本書ではmicroSDHCカードおよびmicroSDXCカード（microSDカードを含む）を、以降「SDカード」と記載いたします。
- その他のオプション品につきましては、お問い合わせ先（→ P.57）までご連絡ください。

マナーとルールを守り安全に使用しましょう

本機を使用する場合は、周囲の方の迷惑にならないように注意しましょう。
また、お読みになったあとは本書を大切に保管してください。

こんな使いかたはやめましょう

本機をご利用になるときに、誤った使いかたをすると、けがや故障の原因となります。

分解・改造
分解や改造をしないでください。

水濡れ
手や本機が濡れている状態でカバー類の開閉はしないでください。

外部接続端子の接触禁止
外部接続端子に金属などを触れさせないようにしてください。

指定品以外の使用
本機に使用する機器は、当社の指定品以外のものは使用しないでください。

加熱の禁止
電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に本機を入れて加熱しないでください。

運転中
自動車運転中のご使用は危険なため、法律で禁止されています。車を安全なところに停車させてからご使用ください。

このようなときは必ず電源を切りましょう

■ 航空機内

運航の安全に支障をきたす可能性があります（航空機内では、航空会社の指示に従い、適切にご使用ください）。

■ 病院内

病院など医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従いましょう。

■ 混雑した場所など

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着した方が近くにいる可能性があります。植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器に悪影響を与える恐れがありますので、事前に本機の通信機能が使用できない状態（例：機内モード）に切り替えるか、または電源をお切りください。

■ 映画館・劇場・美術館など公共の場所

静かにすべき公共の場所で本機を使用すると、周囲の方への迷惑になります。

マナーを守るための便利な機能

マナーモード
電話がかかってきたときなど、着信音が鳴らないようにします。
伝言メモ
電話を受けられないとき、相手の方の伝言を録音できます。
留守番電話サービス
圏外時や電話を受けられないとき、留守番電話センターで伝言をお預かりします。

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、お読みになったあとは大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 本機の故障、誤動作または不具合などにより、通話などの機会を逸したために、お客様、または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

表示の説明

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

⚠ 危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷※1を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷※1を負う可能性が想定される」内容です。
	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷※2を負う可能性が想定される場合および物的損害※3のみの発生が想定される」内容です。

※1 重傷とは失明、けが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをいう。

※2 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電などをいう。

※3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害を指す。

絵表示の説明

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
分解禁止	分解してはいけないことを示します。
水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示します。
濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示します。
指示	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示します。
電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示します。

本機、SIMカード、TVアンテナケーブル、卓上ホルダ（オプション品）、ACアダプタ（オプション品）の取り扱いについて（共通）

⚠危険

本機に使用するTVアンテナケーブル・卓上ホルダ（オプション品）・ACアダプタ（オプション品）は、ソフトバンクが指定したものを使用してください。
指定品以外のものを使用した場合は、内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や、TVアンテナケーブル・卓上ホルダ（オプション品）・ACアダプタ（オプション品）の発熱・発火・故障などの原因となります。

分解・改造・ハンダ付けなどお客様による修理をしないでください。
火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。また、内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火などの原因となります。本機の改造は電波法違反となり、罰則の対象となります。

濡らさないでください。
水やペットの尿などの液体が入ったときに、濡れたまま放置すると、発熱・感電・火災・けが・故障などの原因となります。使用場所、取り扱いにご注意ください。

高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で充電・使用・放置しないでください。また、暖かい場所や熱のこもりやすい場所（こたつや電気毛布の中、携帯カイロのそばのポケット内など）においても同様の危険がありますので、充電・放置・使用・携帯しないでください。
機器の変形・故障や内蔵電池の漏液・発熱・発火・破裂の原因となります。また、ケースの一部が熱くなり、やけどなどの原因となることがあります。

本機にACアダプタ（オプション品）を接続する際、うまく取り付けや接続ができないときは、無理に行わないでください。
内蔵電池を漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。またmicroUSB接続端子を破損・焼損させる原因となります。

本機とACアダプタ（オプション品）を接続した状態で、踏みつけるなど外部から過大な力を加えないようにしてください。
端子が破損した状態で充電すると故障や火災の原因となります。充電するときは、使用場所、取り扱いにご注意ください。

⚠警告

本機・TVアンテナケーブル・卓上ホルダ（オプション品）・ACアダプタ（オプション品）を、加熱調理機器（電子レンジなど）・高圧容器（圧力釜など）の中に入れたり、電磁調理器（IH調理器）の上に置いたりしないでください。
内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や、本機・TVアンテナケーブル・卓上ホルダ（オプション品）・ACアダプタ（オプション品）の発熱・発煙・発火・故障などの原因となります。

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所（ガソリンスタンドなど）では、必ず事前に本機の電源をお切りください。また、充電もしないでください。
ガスに引火する恐れがあります。ガソリンスタンド構内などでNFC（おサイフケータイ®を含む）対応携帯電話をご利用になる際は、電源を切った状態で使用してください。（NFC／おサイフケータイ® ロックを設定されている場合は、ロックを解除したうえで電源をお切りください。）

落としたり、投げたりして、強い衝撃を与えないでください。
内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や火災・感電・故障などの原因となります。

使用中、充電中、保管時に、異音・発煙・異臭など、今までと異なることに気づいたときは、次の作業を行ってください。
1. コンセントから AC アダプタ(オプション品)を持って電源プラグを抜いてください。また、高温になっている可能性があるためやけどに注意して、本機を取り外してください。
2. 本機の電源を切ってください。

異常な状態のまま使用すると、火災や感電などの原因となります。

ヘッドセット接続端子、microUSB接続端子、SIMカード／SDカード挿入口に液体（水道水、清涼飲料水、海水、ペットの尿など）や導電性異物（鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど）が触れないようにしてください。また内部に入れないようにしてください。
ショートによる火災・やけど・故障などの原因となります。
IPXは防水・防塵性能を表す規格ですが、この規格に準拠していても、異物や液体の付着によるショートを防止できるものではありません。
また海水・プール・熱湯などは防水性能の対象外となります。異物や液体が付着した場合は、十分に取り除いてから充電してください。

⚠ 注意

禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落下して、けがや故障などの原因となります。バイブレーション（振動）設定中や充電中は、特にご注意ください。また充電中の落下は端子の破損の原因となります。

禁止

本機をACアダプタ（オプション品）から取り外す際は、コードを引っ張らず、ACアダプタ（オプション品）のmicroUSBプラグを持って取り外してください。
コードを引っ張るとコードが傷ついたり、端子の破損による火災や感電などの原因となります。

禁止

充電中は、本機・卓上ホルダ（オプション品）・ACアダプタ（オプション品）に長時間触れないでください。
低温やけどになる恐れがあります。

指示

乳幼児の手の届かない場所や、ペットが触れない場所に保管してください。
誤って飲み込んだり、けがなどの原因となります。

指示

子供が使用する場合は、保護者が取り扱い方法を教えてください。使用中においても、指示どおりに使用しているかをご注意ください。
けがなどの原因となります。

本機の取り扱いについて

本機の内蔵電池の種類は以下のとおりです。

表示	電池の種類
Li-ion 00	リチウムイオン電池

⚠ 危険

火の中に投下しないでください。
内蔵電池を漏液・破裂・発火させるなどの原因となります。

釘を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、強い衝撃を与えないでください。
内蔵電池を漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

内蔵電池内部の液が眼の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗い流し、ただちに医師の診察を受けてください。
失明などの原因となります。

⚠ 警告

自動車、バイク、自転車などの乗り物の運転中には使用しないでください。
交通事故の原因となります。乗り物を運転しながら携帯電話を使用することは、法律で禁止されており、罰則の対象となります。運転者が使用する場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所に止めてからご使用ください。

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本機の電源を切ってください。
電子機器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。
※　ご注意いただきたい電子機器の例
補聴器・植込み型心臓ペースメーカ・植込み型除細動器・その他の医用電気機器・火災報知器・自動ドア・その他の自動制御機器など

指示

航空機内では航空会社の指示に従い適切にご使用ください。
本機の電波により運航の安全に支障をきたす恐れがあります。

指示

心臓の弱い方は、着信時のバイブレーション（振動）や着信音量の設定に注意してください。
心臓に影響を与える恐れがあります。

指示

屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、ただちに電源を切って屋内などの安全な場所に移動してください。
落雷や感電の原因となります。

禁止

フラッシュ／フォトライトの発光部を人の目に近づけて点灯発光させないでください。また、フラッシュ／フォトライト点灯時は発光部を直視しないようにしてください。同様にフラッシュ／フォトライトを他の人の目に向けて点灯させないでください。
視力低下などの傷害を起こす原因となります。特に乳幼児に対して至近距離で撮影しないでください。また、目がくらんだり、驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。

禁止

充電中は、本機を布や布団でおおったり、包んだりしないでください。また布や布団でおおった状態で、就寝しないようにしてください。
熱がこもって火災・やけど・故障などの原因となります。

指示

内蔵電池内部の液が皮膚や衣服に付着した場合は、ただちに本機の使用をやめ、きれいな水で洗い流してください。
皮膚に傷害を起こすなどの原因となります。

指示

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。
内蔵電池を漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

⚠注意

禁止

車両電子機器に影響を与える場合は使用しないでください。
本機を自動車内で使用すると、車種によりまれに車両電子機器に影響を与え、安全走行を損なう恐れがあります。

本機の使用により、皮膚に異常が生じた場合は、ただちに使用をやめて医師の診察を受けてください。
本機では材料として金属などを使用しています。お客様の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などが生じることがあります（使用材料→P.56）。

本機に磁気カードなどを近づけないでください。
キャッシュカード・クレジットカード・テレホンカード・フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。

ストラップなどを持って本機をふり回さないでください。
本人や周囲の人に当たったり、ストラップが切れたりして、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。

本機を長時間ご使用になる場合、高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）、また、暖かい場所や熱のこもりやすい場所（こたつや電気毛布の中、携帯カイロのそばのポケット内など）では熱くなることがありますので、ご注意ください。
長時間肌にふれたまま使用していると、低温やけどになる恐れがあります。

充電しながら携帯電話やアプリケーション（ゲームなど）を長時間使用すると、本機やACアダプタ（オプション品）の温度が高くなることがありますので、温度の高い部分に長時間触れないでください。
低温やけどなどの原因となります。

着信音が鳴っているときや、本機でメロディを再生しているときなどは、スピーカーに耳を近づけないでください。
難聴になる可能性があります。

テレビを視聴するときは、十分明るい場所で、画面からある程度の距離を空けてご使用ください。
視力低下につながる可能性があります。

イヤホンを使用するときは音量に気をつけてください。
長時間使用して難聴になったり、突然大きな音が出て耳をいためたりする原因となります。

卓上ホルダ（オプション品）、ACアダプタ（オプション品）の取り扱いについて

⚠警告

禁止

充電中は、布や布団でおおったり、包んだりしないでください。また布や布団でおおった状態で、就寝しないようにしてください。
熱がこもって火災・やけど・故障などの原因となります。

禁止

指定以外の電源・電圧で使用しないでください。
指定以外の電源・電圧で使用すると、火災や故障などの原因となります。

ACアダプタ（オプション品）：AC100V～240V（家庭用交流 ACコンセント専用）

また、海外旅行用として、市販されている「変圧器」は使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

電源プラグを抜く

使用しない場合は、ACアダプタ（オプション品）を持って電源プラグをコンセントから抜いてください。
電源プラグを挿したまま放置し、ACアダプタ（オプション品）のプラグに異物や液体が付着したり、ACアダプタ（オプション品）のプラグを踏みつけたりすると、感電・火災・故障の原因となります。

電源プラグを抜く

万一、水やペットの尿などの液体が入った場合は、ただちにACアダプタ（オプション品）を持ってコンセントからプラグを抜いてください。
感電・発煙・火災の原因となります。

指示

プラグにほこりがついたときは、ACアダプタ（オプション品）を持ってプラグをコンセントから抜き、乾いた布などで拭き取ってください。
火災の原因となります。

指示

ACアダプタ（オプション品）の電源プラグをコンセントに差し込むときは、卓上ホルダ（オプション品）の端子およびACアダプタ（オプション品）の電源プラグや端子に導電性異物（鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど）が触れないように注意して、確実に差し込んでください。
感電やショートによる火災・やけど・故障などの原因となります。

濡れ手禁止

濡れた手でACアダプタ（オプション品）の電源プラグや端子を抜き差ししないでください。
感電や故障などの原因となります。

禁止

雷が鳴り出したら、ACアダプタ（オプション品）には触れないでください。
感電などの原因となります。

⚠注意

電源プラグを抜く

お手入れの際は、コンセントから必ずACアダプタ（オプション品）を持って電源プラグを抜いてください。
感電などの原因となります。

指示

ACアダプタ（オプション品）をコンセントから抜くときは、コードを引っ張らず、ACアダプタ（オプション品）を持ってプラグを抜いてください。
コードを引っ張るとコードが傷つき、感電や火災などの原因となります。

指示

ACアダプタ（オプション品）をテーブルタップに接続しているときは、踏みつけるなど外部から過大な力を加えないようにしてください。
火災や故障の原因となります。

禁止

ACアダプタ（オプション品）をコンセントに接続しているときは、引っ掛けるなど強い衝撃を与えないでください。
けがや故障の原因となります。

禁止

充電中は卓上ホルダ（オプション品）の充電端子に長時間触れないでください。
低温やけどになる恐れがあります。

禁止

プラグに手や指など身体の一部が触れないようにしてください。
やけど・感電·傷害·故障の原因となります。

医用電気機器近くでの取り扱いについて

ここで記載している内容は、「医療機関内での携帯電話等の使用に関する指針」（電波環境協議会［平成26年8月］）および「各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器へ及ぼす影響を防止するための指針」（総務省）の内容を参考にしたものです。

⚠警告

指示

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、ペースメーカ等の装着部位から15cm以上離して携行および使用してください。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

指示

自宅療養など医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどに確認してください。

電波により医用電気機器の作動に影響を与える場合があります。

指示

医療機関などでは、以下を守ってください。本機の電波により医用電気機器に影響を及ぼす恐れがあります。

- 医療機関内での携帯電話の使用においては、各医療機関からの指示に従ってください。
- 手術室、集中治療室（ICU）などでは、本機の電源を必ず切ってください。
- 病室・ロビーなど使用を許可されたエリアでも、近くに医用電気機器がある場合は、必要な離隔距離を確保してください。

指示

付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、身動きが自由に取れないほど混雑した状況等、15cm以上離隔距離を確保できない恐れがある場合には、事前に通信機能が使用できない状態（例：機内モード）に切り替えるか、または携帯電話の電源をお切りください。

電波により、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。

お願いとご注意

お取り扱いについて

■ 本機、SIMカード、TVアンテナケーブル、卓上ホルダ（オプション品）、ACアダプタ（オプション品）について（共通）

- 水をかけないでください。
  卓上ホルダ（オプション品）やACアダプタ（オプション品）、同梱品は防水仕様にはなっておりません。風呂場など、湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身に付けている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できないことがありますので、あらかじめご了承願います。なお、保証対象外ですので修理を実施できる場合でも有料修理となります。
- 極端な高温、低温、多湿の場所では使用しないでください。
  周囲温度5℃～35℃、湿度35%～85%の範囲内でご使用ください。ただし、周囲温度36℃～40℃、湿度86%～90%であれば一時的な使用は可能です。
- 充電は、適正な周囲温度（5℃～35℃）の場所で行ってください。
- 次のような場所では、使用しないでください。
  - 湿気、ほこり、振動の多い場所
  - 一般の電話機やテレビ、ラジオなどの近く
- 抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。
- フル充電や電池残量が十分でない状態で保管すると内蔵電池の性能低下の原因となります。
  電池残量が40パーセント程度での保管をおすすめします。
- 電源キー（⏻）を押して電源を切っても、本機は、電源からは完全には遮断されていません。電源から切り離すためには、ACアダプタ（オプション品）の電源プラグをコンセントから抜く必要があります。不具合を感じた場合はすぐにコンセントから電源プラグを抜けるよう、ACアダプタ（オプション品）は、コンセントの近くでお使いください。
- 本機の温度が上昇するとディスプレイが暗くなる場合がありますが、異常ではありません。
- 強い衝撃を与えないでください。また、microUSB接続端子を変形させないでください。故障の原因となります。
- 端子は時々乾いた綿棒などで清掃してください。端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れたり充電不十分の原因となったりしますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。
- お手入れは乾いた柔らかい布で拭いてください。
  - 乾いた布などで強く擦ると、傷がつく場合があります。
  - 濡れたぞうきんなどで拭くと、故障の原因となります。

- アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、表面の仕上げを傷めることがあります。

- ヘッドセット接続端子や microUSB 接続端子を時々乾いた綿棒などで掃除してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。また、このとき強い力を加えてヘッドセット接続端子やmicroUSB接続端子、接続プラグを変形させないでください。
- カメラを直射日光の当たる場所に放置しないでください。素子の退色・焼付きを起こす場合があります。
- 磁気データや磁気を帯びたものに近づけないでください。キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気データが消えたり、本機の誤動作の原因となります。
- 銘板プレートに貼ってあるIMEIの印刷されたシールをはがしたり、銘板プレートを取り外したりしないでください。
- 本機を卓上ホルダ（オプション品）に取り付ける場合、アタッチメントは52Bを取り付けることをおすすめします。

■ 充電について

- 充電中、ACアダプタ（オプション品）が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 電源を切った状態で充電を開始すると、操作はできませんが本機の電源が入った状態になります。このため、航空機内や病院など、使用を禁止された区域では充電を行わないでください。
- 電池残量は、画面上部のステータスバーで確認できます。
- 内蔵電池の使用時間は、使用環境や内蔵電池の状態により異なります。
- 内蔵電池は消耗品です。充電を繰り返すごとに1回で使える時間が、次第に短くなっていきます。
- 内蔵電池は消耗品です。十分に充電しても使用できる時間が極端に短くなったら、交換時期です。内蔵電池を交換してください。なお、内蔵電池は、お客様自身では交換できません。内蔵電池の交換については、「ソフトバンクショップ」などで、本機をお預かりして有料にて承ります。ソフトバンクショップもしくはお問い合わせ先（→P.57）へご相談ください。
- 充電しながらアプリケーションなどを長時間使用すると、内蔵電池の寿命が短くなることがあります。

■ タッチパネルについて

- 本機のディスプレイはタッチパネルになっており、指で直接触れて操作します。
- タッチパネルは指で軽く触れるように設計されています。指で強く押したり、先の尖ったもの（爪／ボールペン／ピンなど）を押し付けたりしないでください。
- 次の場合はタッチパネルに触れても動作しないことがあります。また、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
  - 爪の先での操作
  - 異物を操作面に乗せたままでの操作
  - 保護シートやシールなどを貼っての操作

- ディスプレイに水滴が付着または結露している状態での操作
- 濡れた指または汗で湿った指での操作
- 水中での操作

● ディスプレイは強化ガラスを使用してガラスが飛び散りにくい構造となっておりますが、誤って割れた破損部や露出部に触れますと、けがの原因となることがあります。

■ 受話口／スピーカーについて

本機は受話口とスピーカーが兼用になっているため、音の再生／着信時などに大きな音がスピーカーから直接耳に入る恐れがあります。
大きな音で耳を刺激すると聴力に悪い影響を与える可能性があります。通話後はすぐに耳から離すなど注意してご使用ください。

■ 電波法に基づく認証について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、次の事項を行うと法律により罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること
- 改造された本機は絶対に使用しないでください。
  改造した本機を使用した場合は電波法に抵触します。
  本機は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けており、その証として「技適マーク」が本機の電子銘板に表示されております。電子銘板は、ホーム画面で → ［設定］ → ［端末情報］ → ［認証］ をタップしてご確認いただけます。
  本機のネジを外すなどして内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。
  技術基準適合証明などが無効となった状態で使用すると、電波法に抵触しますので、絶対に使用されないようにお願いいたします。
- 基本ソフトウェアを不正に変更しないでください。ソフトウェアの改造とみなし故障修理をお断りする場合があります。

指紋認証機能について

■ 指紋認証機能利用時のご注意

- 指紋の特徴情報を利用して認証を行うため、特徴情報が少ないお客様の場合は、指紋認証を利用できないことがあります。
- 認証性能（指で指紋センサー（ ）に正しく触れた際に指紋が認証される性能）は、お客様の使用状況により異なります。指の状態が次のような場合は、指紋の登録が困難になったり、認証性能が低下したりすることがあります。なお、手を拭く、手を洗う、認証する指を変える、指の登録範囲を広くするなどで、認証性能が改善されることがあります。
  - お風呂上がりなどで指がふやけていたり、濡れていたりしている
  - 指に汗や脂（ハンドクリームなど）が多く付着している

- 泥や油などで指が汚れている
- 手荒れや、指に損傷（切傷やただれなど）がある
- 指が極端に乾燥している
- 太ったりやせたりして指紋が変化した
- 指の表面が磨耗して指紋が薄い
- 登録時に比べ、認証時の指の表面状態が極端に異なる

- 指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保証するものではありません。当社では第三者に本機を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関して、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 指紋センサー（ ⏻ ）利用時のご注意

- ぶつけたり、強い衝撃を与えないでください。また、表面をひっかいたり、先の尖ったものでつついたりしないでください。故障および破損の原因となることがあります。
- 指紋センサーにシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりしないでください。
- 指紋センサーが汚れると、指紋の読み取りが困難になったり、認証性能が低下したりすることがあります。指紋センサー表面は時々清掃してください。

Bluetooth®／Wi-Fi（無線LAN）機能について

■ 周波数帯について

本機のBluetooth®機能／Wi-Fi（無線LAN）機能が使用する周波数帯は、次のとおりです。

2.4FH4/XX8/DS4/OF4
■■■

2.4：2400MHz帯を使用する無線設備を表します。
FH/XX/DS/OF：変調方式がFH-SS、その他の方式、DS-SS、OFDMであることを示します。
4：想定される与干渉距離が40m以下であることを示します。
8：想定される与干渉距離が80m以下であることを示します。
■■■：2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

利用可能なチャンネルは国により異なります。
航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

■ Bluetooth®機器使用上のご注意

本機の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略します）が運用されています。

- 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。
- その他、ご不明な点につきましては、ソフトバンクショップもしくはお問い合わせ先（→P.57）までご連絡ください。

■ Wi-Fi（無線LAN）対応機器との電波干渉について

本機のBluetooth®機能とWi-Fi（無線LAN）対応機器は、同一周波数帯（2.4GHz）を使用するため、Wi-Fi（無線LAN）対応機器の近辺で使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- Bluetooth®機器とWi-Fi（無線LAN）対応機器の位置を離してください。必要な距離は機器によって異なります。
- 改善しない場合は、Bluetooth®機器またはWi-Fi（無線LAN）対応機器の電源を切ってください。

■ Wi-Fi（無線LAN）について

- Wi-Fi（無線 LAN）は、電波を利用して情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者に通信内容を盗み見られたり、不正に侵入されてしまう可能性があります。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、使用することを推奨します。
- 本機のワイヤレス機能は、日本国内のみでお使いください。
- 電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。
  - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
  - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - 近くに複数のWi-Fi（無線LAN）アクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。
- Wi-Fiをオンにしてから利用可能なWi-Fiネットワークを検索して接続します。
- Wi-Fi（無線 LAN）機能を使用してインターネットへ接続する場合、事前に Wi-Fiネットワークへの接続を行ってください。

- Wi-Fi（無線 LAN）機能を使用するときには十分な電波強度が得られるようご注意ください。Wi-Fiネットワークの電波強度は、お使いの機器の位置によって異なります。Wi-Fiルーターの近くに移動すれば、電波強度が改善されることがあります。
- Wi-Fi（無線 LAN）機能を使用しないときは、オフにすることで電池の消費を抑制できます。

■ 2.4GHz機器使用上のご注意

WLAN搭載機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかご利用を中断していただいたうえで、ソフトバンクショップもしくはお問い合わせ先（→P.57）までご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、ソフトバンクショップもしくはお問い合わせ先（→P.57）までご連絡ください。

■ 5GHz機器使用上のご注意

本機は、5GHzの周波数帯において、5.2GHz帯（W52）、5.3GHz帯（W53）、5.6GHz帯（W56）の3種類の帯域を使用できます。

- 5.2GHz帯（W52／36、40、44、48ch）
- 5.3GHz帯（W53／52、56、60、64ch）
- 5.6GHz帯（W56／100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140ch）

本機に内蔵の無線LAN（WLAN）を5.2／5.3GHz帯でご使用になる場合、電波法の定めにより屋外ではご利用になれません。

■ Bluetooth®機器との電波干渉について

Bluetooth®機器と無線LAN（IEEE802.11b/g/n）は同一周波数（2.4GHz）を使用するため、Wi-Fi（無線LAN）を搭載した機器の近くで使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。また、ストリーミングデータ再生時などで通信が途切れたり音声が乱れたりすることがあります。この場合、次の対策を行ってください。

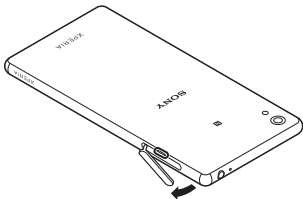
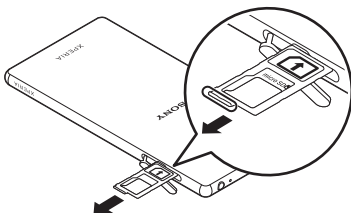
- Wi-Fi（無線LAN）機器とBluetooth®機器の位置を離してください。必要な距離は機器によって異なります。
- 改善しない場合はBluetooth®機器の電源を切ってください。

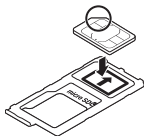
SIMカードについて

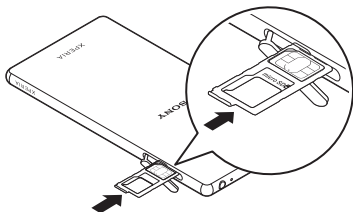
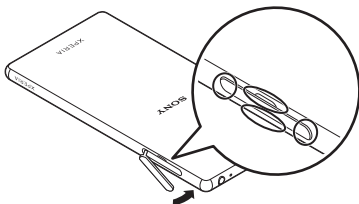
SIMカードは、お客様の電話番号や情報などが記憶されたICカードです。

- SDカードを取り付けている場合は、必ずSDカードのマウントを解除してから、SIMカードの取り付け／取り外しを行ってください。

■ SIMカードを取り付ける

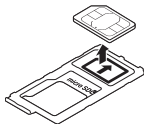
1 **ミゾに指先をかけて、SIMカード／SDカード挿入口カバーを開く**

2 **トレイの突起部に指先をかけてまっすぐに引き出し、本体からトレイを取り外す**

3 SIMカードのIC部分を上にしてトレイにはめ込む

- 切り欠きの位置にご注意ください。

4 トレイを本体に差し込んで奥までまっすぐ押し込む

- トレイを差し込む方向にご注意ください。

5 SIMカード／SDカード挿入口カバーを閉じて、○部分をしっかりと押し、本体とすき間がないことを確認する

■ SIMカードを取り外す

1 ミゾに指先をかけて、SIMカード／SDカード挿入口カバーを開く

2 トレイの突起部に指先をかけてまっすぐに引き出し、本体からトレイを取り外す

3 トレイからSIMカードを取り出す

4 トレイを本体に差し込んで奥までまっすぐ押し込む

- トレイを差し込む方向にご注意ください。

5 SIMカード／SDカード挿入口カバーを閉じてしっかりと押し、本体とすき間がないことを確認する

SDカードについて

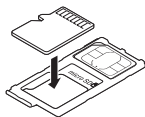
データをSDカードに保存したり、SDカード内のデータを本機に取り込んだりできます。SDカードは互換性のある他の機器でも使用できます。

- SDカードは同梱されていません。必要に応じて別途ご購入ください。
- 本機では市販の2GBまでのmicroSDカード、32GBまでのmicroSDHCカード、200GBまでのmicroSDXCカードに対応しています。
- 対応のSDカードは各SDカードメーカーへお問い合わせください。
- SDカードの使用中は、SDカードを取り外したり、本機の電源を切ったりしないでください。データの消失、故障の原因となります。

■ SDカードを取り付ける

1 ミゾに指先をかけて、SIMカード／SDカード挿入口カバーを開く（→P.21）

2 トレイの突起部に指先をかけてまっすぐに引き出し、本体からトレイを取り外す（→P.21）

3 SDカードの金属端子面を上にしてトレイにはめ込む

4 トレイを本体に差し込んで奥までまっすぐ押し込む（→P.22）

- トレイを差し込む方向にご注意ください。

5 SIMカード／SDカード挿入口カバーを閉じてしっかりと押し、本体とすき間がないことを確認する（→P.23）

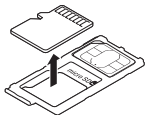
■ SDカードを取り外す

必ずSDカードのマウントを解除してから行ってください。

1 ホーム画面で → ［設定］ → ［ストレージ］ → ［SDカードのマウント解除］ → ［OK］

2 ミゾに指先をかけて、SIMカード／SDカード挿入口カバーを開く

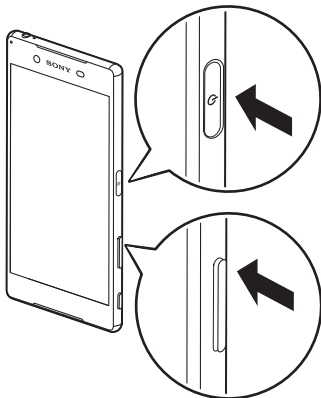
3 トレイの突起部に指先をかけてまっすぐに引き出し、本体からトレイを取り外す

4 トレイからSDカードを取り出す

5 トレイを本体に差し込んで奥までまっすぐ押し込む

- トレイを差し込む方向にご注意ください。

6 SIMカード／SDカード挿入口カバーを閉じてしっかりと押し、本機とすき間がないことを確認する

強制終了について

画面が動かなくなったり、電源が切れなくなったりした場合は、電源キー（ ⏻ ）と音量キーの上を同時に約3秒間押し、3回振動した後に指を離すと、本機の電源を強制的に切ることができます。

- SIMカード／SDカード挿入口カバーを開き、黄色のOFFボタンを約3秒間押し、本機が3回振動した後に離しても本機の電源を強制的に切ることができます。
- 黄色のOFFボタンは、針など尖ったもので押すと故障の原因になります。

防水／防塵性能について

SIMカード／SDカード挿入口カバーを確実に取り付けた状態で、IPX5、IPX8の防水性能、IP6Xの防塵性能を有しています。
IPX5：内径6.3mmの注水ノズルを使用し、約3mの距離から12.5L／分の水を最低3分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、携帯電話としての機能を有することを意味します。
IPX8：常温で水道水、かつ静水の水深1.5mのところに静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときに携帯電話としての機能を有することを意味します。
IP6X：直径75μm以下の塵埃（じんあい）が入った装置に携帯電話を8時間入れてかくはんさせ、取り出したときに携帯電話の内部に塵埃が侵入しない機能を有することを意味します。

本機が有する防水／防塵性能でできること

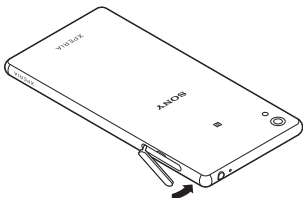
- 雨の中で傘をささずに通話ができます（1時間の雨量が20mm程度）。
  - 手が濡れているときや本機に水滴がついているときには、SIMカード／SDカード挿入口カバーの開閉はしないでください。
- 汚れたり水道水以外が付着したりした場合に洗い流すことができます。
  - やや弱めの水流（6L／分未満）で蛇口やシャワーより約10cm離れた位置で常温（5℃～35℃）の水道水で洗えます。
  - 洗うときはSIMカード／SDカード挿入口カバーを開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず手洗いしてください。洗った後は、水抜きをしてから使用してください。
- プールサイドで使用できます。ただし、プールの水をかけたり、プールの水に浸けたりしないでください。

防水／防塵性能を維持するために

水や粉塵の侵入を防ぐために、必ず次の点を守ってください。

- 常温の水道水以外の液体をかけたり、浸けたりしないでください。
- SIMカード／SDカード挿入口カバーはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ（髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など）が挟まると、水や粉塵が侵入する原因となります。
- 受話口／スピーカー、送話口（マイク）／スピーカー、セカンドマイク、ヘッドセット接続端子、microUSB接続端子、ストラップホールなどを尖ったものでつつかないでください。
- 落下させないでください。傷の発生などにより防水／防塵性能の劣化を招くことがあります。
- SIMカード／SDカード挿入口カバー裏面のゴムパッキンは防水／防塵性能を維持するうえで重要な役割を担っています。はがしたり傷つけたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。

■ SIMカード／SDカード挿入口カバーの閉じかた

矢印の方向へカバーを押し込んですき間がないことを確認してください。

- 防水／防塵性能を維持するため、異常の有無にかかわらず2年に1回部品の交換をおすすめします。「ソフトバンクショップ」などで、本機をお預かりして部品の交換を有料にて承ります。ソフトバンクショップもしくはお問い合わせ先（→P.57）へご相談ください。

ご使用にあたってのご注意

次のイラストで表すような行為は行わないでください。

〈例〉

石鹸／洗剤／入浴剤をつける

ブラシ／スポンジで洗う

洗濯機で洗う

強すぎる水流を当てる

海水につける

温泉で使う

砂／泥をつける

また、次の注意事項を守って正しくお使いください。

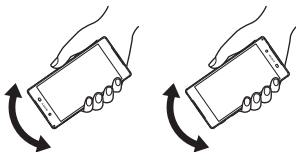
- 付属品は防水／防塵性能を有していません。
- 規定（→P.27）以上の強い水流を直接当てないでください。IPX5の防水性能を有していますが、故障の原因となります。
- 万一、塩水や海水、清涼飲料水がかかったり、泥や土などが付着したりした場合には、すぐに洗い流してください。乾燥して固まると、汚れが落ちにくくなり、傷や故障の原因となります。
- 熱湯に浸けたり、サウナで使用したり、温風（ドライヤーなど）を当てたりしないでください。
- 水中で移動させたり、水面に叩きつけたりしないでください。
- 水道水に浸けるときは、30分以内としてください。
- プールで使用するときは、その施設の規則を守って、使用してください。
- 本機は水に浮きません。
- 水滴が付着したまま放置しないでください。寒冷地では凍結し、故障の原因となります。
- 受話口／スピーカー、送話口（マイク）／スピーカー、セカンドマイク、ヘッドセット接続端子に水滴を残さないでください。通話不良となったり、衣服やかばんを濡らしてしまうことがあります。
- SIM カード／ SD カード挿入口カバーが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切って、ソフトバンクショップもしくはお問い合わせ先（→P.57）までご連絡ください。
- SIM カード／ SD カード挿入口カバー裏面のゴムパッキンが傷ついたり、変形したりした場合は、ソフトバンクショップもしくはお問い合わせ先（→P.57）にてお取り替えください。
- 本機が水で濡れた状態でイヤホンなどを接続しないでください。故障の原因となります。
- ヘッドセット接続端子、microUSB接続端子は、濡れていたり、砂やほこりが付着した状態でご使用にならないでください。防水性能が損なわれたり、感電や回路のショートなどにより、故障・やけど・火災の原因となります。
- 湿気の多い場所に長時間放置しないでください。ご使用後は、浴室から取り出しておいてください。
- 寒い屋外から暖かい浴室などに急に本機を持ち込まず、一度室内に置いて本体が温まってから持ち込んでください。

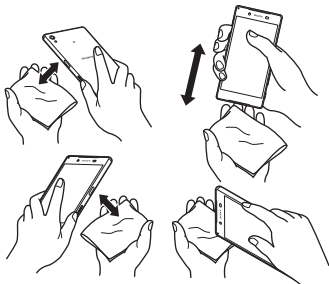
- 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

水抜きについて

本機を水に濡らすと、拭き取れなかった水が後から漏れてくることがありますので、次の手順で水抜きを行ってください。

1 本機をしっかりと持ち、表面、裏面を乾いた清潔な布などでよく拭き取る

2 本機をしっかりと持ち、20回程度水滴が飛ばなくなるまで振り（左図）、上下の向きを変え、再度20回程度振る（右図）

3 **本機内部より出てきた水分を乾いた清潔な布などで十分に拭き取る**

- 特に受話口／スピーカー、送話口（マイク）／スピーカー、セカンドマイク、ヘッドセット接続端子、microUSB接続端子は水が抜けにくいため、布などに押し付けるように下向きにして拭き取ってください。

4 **乾いた清潔な布などを下に敷き、2〜3時間程度常温で放置して自然乾燥させる**

充電のときは

充電時、および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- 充電時は、本機が濡れていないか確認してください。本機が濡れている状態では、絶対に充電しないでください。
- 付属品は防水／防塵性能を有していません。
- 本機または充電器が濡れている状態では microUSB プラグを絶対に接続しないでください。本機は防水性能を有しておりますが、濡れた状態でmicroUSBプラグを挿入すると、本機やmicroUSBプラグに付着した液体（水道水、清涼飲料水、海水、ペットの尿など）や異物により、感電や回路のショートなどにより、故障・やけど・火災の原因となります。
- 卓上ホルダ（オプション品）やACアダプタ（オプション品）、microUSBケーブル（市販品）は、風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りや水のかかる場所で使用しないでください。火災や感電の原因となります。

• 濡れた手で卓上ホルダ（オプション品）やACアダプタ（オプション品）、microUSBケーブル（市販品）に触れないでください。感電の原因となります。

エンドユーザーライセンス契約

本機及び付属のメディアに含まれるソフトウェア（以下「本ソフトウェア」という）は、ソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社（以下「ソニーモバイル」という）及び／又はその子会社、サプライヤー、ライセンサーがその権利を有するものとします。

ソニーモバイルは、お客様に対し、本ソフトウェアについて、本機と共に使用する場合に限り、非独占、限定的なライセンス（以下「本ライセンス」という）を許諾します。

本ソフトウェアの権利は、何ら販売、移転、その他の方法で譲渡されるものではありません。

お客様は、いかなる手段を用いても、本ソフトウェアのソースコード及びコンポーネントを解読してはならず、また、本ソフトウェアを複製、頒布、修正することは出来ません。

お客様が本ソフトウェアについての権利及び義務を第三者に譲渡出来るのは、本ソフトウェアを本機と共に第三者に譲渡し、かつ、当該第三者が、本ライセンスの条件を遵守することにつき書面をもって合意した場合に限られます。

本ライセンスは、お客様の本機使用期間中、有効に存続します。

本ライセンスは、お客様の権利を本機と共に第三者に書面により譲渡することによって終了することが出来ます。

お客様が、本契約のいずれかの条項に違反した場合、本ライセンスは直ちに取り消されます。

本ソフトウェアに関する全ての権利、権原、権益は、ソニーモバイル、サプライヤー、及びライセンサーに帰属するものとします。

本ソフトウェアに、サプライヤー又はライセンサーが権利を有する素材又はコードが含まれている場合は、その限りにおいて、かかるサプライヤー又はライセンサーは本契約における受益者となるものとします。

本契約の準拠法は、日本法とします。

上記準拠法は、適用可能な場合には、消費者の法定の権利にも適用されるものとします。

本ソフトウェアにつき追加的な条件が付された場合は、かかる条件は、本契約の各条項に加えて、お客様の本ソフトウェアの保有及び使用について適用されるものとします。

輸出管理規制について

本機および付属品は、日本輸出管理規制（「外国為替及び外国貿易法」およびその関連法令）の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受ける場合があります。本機および付属品を輸出および再輸出する場合は、お客様の責任および費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問い合わせください。
The products and accessories may be subject to the application of the Foreign Exchange and Foreign Trade Act and other related laws and regulations in Japan.
In addition, the Export Administration Regulations (EAR) of the United States may be applicable.
In cases of exporting or reexporting the products and accessories, customers are requested to follow the necessary procedures at their own responsibility and cost. Please contact the Ministry of Economy, Trade and Industry of Japan or the Department of Commerce of the United States for details about procedures.

知的財産権について

著作権・肖像権について

お客様が本機を利用して撮影またはインターネット上のホームページからダウンロードなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などすることはできません。
実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますのでご注意ください。
また、お客様が本機を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害する恐れがありますのでお控えください。

商標について

本書に記載している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

- SOFTBANK およびソフトバンクの名称、ロゴは日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- S!メール、デコレメールは、ソフトバンク株式会社の登録商標または商標です。

- 本製品は、株式会社ACCESSの技術提供を受けております。
  ©2011 ACCESS CO., LTD. All rights reserved.
  Copyright © 2009 The Android Open Source Project
  Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
  you may not use this file except in compliance with the License.
  You may obtain a copy of the License at

  http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

  Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
  See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.
  ACCESS、ACCESSロゴは、日本国、米国、およびその他の国における株式会社ACCESSの登録商標または商標です。
- 「Yahoo!」および「Yahoo!」のロゴマークは、米国Yahoo! Inc.の登録商標または商標です。
- Copyright © 2012 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.
- 「スグデコ！」は、株式会社アイフリークモバイルの登録商標です。
- Internet SagiWallは、BBソフトサービス株式会社の商標または登録商標です。
- McAfeeおよびその他のマークは、米国法人McAfee, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。
  セキュリティを連想させる赤はMcAfeeブランド製品独自の色です。
- ©SoftBank Corp. /Powered by MediaDo
- ©Disney
  端末本体に内蔵されるコンテンツには、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社やその親会社、ならびにこれらの関連会社（総称して「ディズニー」）の著作権やその他の知的財産権が含まれます。利用条件は、ディズニー公式スマートフォンメンバー会員規約をご覧ください。DISNEY STYLE、DISNEY MARKETはディズニーの登録商標です。
- 「Bluetooth®」は、Bluetooth SIG, Inc.の登録商標であり、ソニーモバイルコミュニケーションズはライセンスに基づいて使用しています。

- Wi-Fi Protected Setup、Wi-Fi Protected Setupロゴ、WPA、Wi-Fi DirectおよびWi-Fi CERTIFIED MiracastはWi-Fi Allianceの商標です。

- Xperia、TrackID、Socialife、Xperia Loungeは、ソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社の商標または登録商標です。
- PlayStation、DUALSHOCK は、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標または登録商標です。

- Sony、スイングパノラマ、スマイルシャッター、プレミアムおまかせオート、顔検出、X-Reality、Reader、STAMINA、Sony Entertainment Network、TV SideViewはソニー株式会社の商標または登録商標です。
- SmartAR®は、ソニー株式会社が開発した拡張現実技術で、同社の日本国内及びその他の国における登録商標または商標です。
- POBoxおよびPOBoxロゴは、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所の登録商標です。
  POBoxは、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所とソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社が共同開発した技術です。

- microSDロゴ、microSDHCロゴ、microSDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- 「おサイフケータイ」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
- FeliCaはソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
  FeliCaはソニー株式会社の登録商標です。
- はNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- 「Google」「Google」ロゴ、「Android」「Google Play」「Gmail」「Googleマップ」「ハングアウト」「Google Calendar」「YouTube」「Google Chrome」は、Google, Inc.の商標または登録商標です。
- FacebookはFacebook, Inc.の登録商標です。
- 「Twitter」の名称、ロゴは、Twitter, Inc.の登録商標です。
- moraおよびモーラの名称、ロゴは、株式会社レーベルゲートの登録商標です。
- "DLNA"、"DLNA"ロゴはDigital Living Network Allianceの商標または登録商標です。
- MHL、Mobile High-Definition LinkおよびMHLロゴは、MHL, LLCの商標または登録商標です。

- MirrorLink、MirrorLinkロゴはCar Connectivity Consortium LLC.の商標または登録商標です。
- 「Microsoft」「Windows」「Windows Vista」「Microsoft Excel」「Microsoft PowerPoint」「Windows Media」は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- 「Microsoft Word」は、米国Microsoft Corporationの商品名称です。
- 本機は、Microsoft の知的財産権に依存した技術が含まれています。かかる技術を本機から切り離して、Microsoftのライセンス許可を受けずに使用または頒布することは禁止されています。

- 本機は、MPEG-4ビジュアルおよびAVC特許ポートフォリオライセンスのもとで、消費者が商業目的以外で個人的に使用するために提供されており、次の用途に限定されます。(i) MPEG-4ビジュアル標準（以下「MPEG-4ビデオ」）またはAVC規格（以下「AVCビデオ」）に準拠したビデオのエンコード、および／または (ii) 商業目的以外の個人的な活動に従事している消費者によってエンコードされたMPEG-4またはAVCビデオのデコード、および／または、MPEG-4またはAVCビデオの提供をMPEG LAによってライセンス許可されているビデオプロバイダから入手したMPEG-4またはAVCビデオのデコード。その他の用途に対するライセンスは許諾されず、黙示的に許可されることもありません。販売促進目的、内部目的および商業目的の使用およびライセンス許可に関する追加情報は、MPEG LA, LLCより入手できます（http://www.mpegla.com を参照）。MPEGレイヤー 3オーディオデコード技術は、Fraunhofer IIS and Thomsonによってライセンス許可されます。
- ANT、ANT+はANT Wirelessの商標または登録商標です。
- ANT+™搭載のフィットネスハブとしての使用について
  本機はANT+™技術に対応した健康機器やフィットネス機器と共に使用できます。例えば、ANT+™に対応した心拍数モニターやフットパッド（速度・距離測定用）を付けてランニングを行うと、走行のデータをお使いの端末に収集し、自身のパフォーマンスの分析や、改善方法について確認できます。
  ANT+™スポーツやフィットネス、健康機器をサポートする各種アプリケーションはGoogle Play™からダウンロードできます。ANT+™対応機器については、www.thisisant.com/directory をご覧ください。
- その他、本書で登録するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。
  なお、本文中では、TM、®マークを省略している場合があります。
- 本書に明示されていないすべての権利は、その所有者に帰属します。

本製品の比吸収率（SAR）について

本項目における「501SO」とは、本機「Xperia™ Z5」を示しています。

この機種501SOの携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および国際ガイドラインに適合しています。

電波の人体吸収に関する国の技術基準※1は、人体の近くで使用する携帯電話機などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率（SAR：Specific Absorption Rate）について、2W/kgの許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分に安全な値として設定されており、世界保健機関（WHO）と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が示した国際的なガイドラインにおける値と同じ値です。
本携帯電話機501SOの側頭部におけるSARの最大値は0.35 W/kgであり、また下記の方法※3により身体に装着した場合のSARの最大値は0.50 W/kg※2です。これらは、国が定めた方法に従い、携帯電話機の送信電力を最大にして測定された最大の値です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満たしています。また、携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通信等を行っている状態では、通常SARはより小さい値となります。

側頭部以外の位置におけるご使用方法※3

この携帯電話機は、側頭部以外の位置でも使用可能です。キャリングケース等のアクセサリをご使用になるなどして、身体から1.5センチ以上離し、かつその間に金属(部分)が含まれないようにすることで、この携帯電話機は電波の人体吸収に関する国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合します。

※1 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の2）に規定されています。
※2 この値は同時送信の値です。

世界保健機関は､『携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。』と表明しています。

また、SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記のホームページをご参照ください。

- 総務省のホームページ
  http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm
- 一般社団法人電波産業会のホームページ
  http://www.arib-emf.org/01denpa/denpa02-02.html

世界保健機関は、携帯機器の使用に関して、現在の科学情報では人体への悪影響は確認されていないと表明しています。また、電波の影響を抑えたい場合には、通話時間を短くすること、または携帯電話機を頭部や身体から離して使用することが出来るハンズフリー用機器の利用を推奨しています。さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

世界保健機関（英文のみ）
http://www.who.int/emf

SoftBank スマートフォン 各機種の電波比吸収率（SAR）一覧はこちら
http://www.softbank.jp/mobile/support/sar/

Specific Absorption Rate (SAR) for This Product (for Japan)

"501SO" here refers to this mobile phone "Xperia™ Z5".

This mobile phone 501SO meets Japanese technical regulations* and international guidelines for exposure to radio waves.

The Japanese technical regulations for exposure to radio frequency energy established permitted levels of radio frequency energy, based on standards developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies.
The regulations employ a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.
The SAR limit is 2 watts/kilogram (W/kg) averaged over ten grams of tissue.
The limit includes a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.
The value of the limit is equal to the value given in international guidelines recommended by ICNIRP**, which is in collaboration with the World Health Organization (WHO).
The highest SAR value for this mobile phone is 0.35 W/kg when tested for use at the ear, and 0.50 W/kg*** when worn on the body in the below manner****.
While there may be differences between the SAR levels of various phones and at various positions, all phones meet the Japanese technical regulations.
Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR of the phone during operation can be well below the maximum value.

Use at positions other than at the ear****

This mobile phone may be used at positions other than at the ear. By using an accessory such as a belt clip holster that maintains a 1.5 cm separation with no metal (parts) between it and the body and the mobile phone, this mobile phone will comply with international guidelines for radio wave protection.

* The technical regulations are provided in Article 14-2 of the Ministry Ordinance Regulating Radio Equipment.
** International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection
*** The value is under simultaneous transmission use conditions.

The World Health Organization has announced that "A large number of studies have been performed over the last two decades to assess whether mobile phones pose a potential health risk. To date, no adverse health effects have been established as being caused by mobile phone use."

For more information about SAR, see the following websites:
・Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)
http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/body/index.htm
・Association of Radio Industries and Businesses (ARIB)
http://www.arib-emf.org/01denpa/denpa02-02.html (Japanese)

This mobile phone 501SO is confirmed to comply with guidelines relating to effects of radio wave exposure as set forth by the Council of Europe (CE) and the Federal Communications Commission (FCC). Refer to the following.

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health. The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2.0 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear is 0.75 W/kg*. As mobile devices offer a range of functions, they can be used in other positions, such as on the body as described in this User Guide**** (See Page 40). In this case, the highest tested SAR value is 0.76 W/kg*.

* The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.
The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organization through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.
The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.
The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg. The tests are performed in positions and locations (e.g. at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model.

The highest SAR value as reported to the authorities for this phone model when tested for use by the ear is 0.54 W/kg, and when worn on the body is 0.46 W/kg. For body-worn operation, this phone has been tested and meets the FCC RF exposure guidelines. Please use an accessory designated for this product or an accessory which contains no metal and which positions the handset a minimum of 15 mm from the body. For devices which include "WiFi hotspot" functionality, SAR measurements for the device operating in WiFi hotspot mode were taken using a separation distance of 10 mm.
The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided. The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of http://www.fcc.gov/oet/ea/) after searching on FCC ID PY7-PM0904.
Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the FCC website at http://transition.fcc.gov/oet/rfsafety/.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head and body.

World Health Organization
http://www.who.int/emf
List of Specific Absorption Rates (SAR) for radio waves by smartphone / 3G model
http://www.softbank.jp/mobile/support/sar/ (Japanese)

Guidelines for Safe and Efficient Use

Please follow these guidelines. Failure to do so might entail a potential health risk or product malfunction. If in doubt as to its proper function, have the product checked by a certified service partner before charging or using it.

Recommendations for care and safe use of our products

- Handle with care and keep in a clean and dust-free place.
- **Warning!** May explode if disposed of in fire.
- Do not expose to liquid or moisture or excess humidity.
- For optimum performance, the product should not be operated in temperatures below +5°C (+41°F) or above +35°C (+95°F). Do not expose the battery to temperatures above +35°C (+95°F).
- Do not expose to flames or lit tobacco products.
- Do not drop, throw or try to bend the product.
- Do not paint or attempt to disassemble or modify the product.
- Consult with authorized medical staff and the instructions of the medical device manufacturer before using the product near pacemakers or other medical devices or equipment.
- Discontinue use of electronic devices or disable the radio transmitting functionality of the device where required or requested to do so.
- Do not use where a potentially explosive atmosphere exists.
- Do not place your product or install wireless equipment in the area above an air bag in a car.
- **Caution:** Cracked or broken displays may create sharp edges or splinters that could be harmful upon contact.
- Do not use the Bluetooth Headset in positions where it is uncomfortable or will be subject to pressure.

Children

Warning! Keep out of the reach of children. Do not allow children to play with mobile phones or accessories. They could hurt themselves or others. Products may contain small parts that could become detached and create a choking hazard.

Power supply (Charger)

Connect the charger to power sources as marked on the product. Do not use outdoors or in damp areas. Do not alter or subject the cord to damage or stress. Unplug the unit before cleaning it. Never alter the plug. If it does not fit into the outlet, have a proper outlet installed by an electrician. When a power supply is connected there is a small drain of power. To avoid this small energy waste, disconnect the power supply when the product is fully charged. Use of charging devices that are not Sony Mobile Communications Inc. branded may pose increased safety risks.

Battery

New or idle batteries can have short-term reduced capacity. Fully charge the battery before initial use. Use for the intended purpose only. Charge the battery in temperatures between +5°C (+41°F) and +35°C (+95°F). Do not put the battery into your mouth. Do not let the battery contacts touch another metal object. Turn off the product before removing the battery. Performance depends on temperatures, signal strength, usage patterns, features selected and voice or data transmissions. Use of an unqualified battery may present a risk of fire, explosion, leakage or other hazard.

Personal medical devices

Mobile phones may affect implanted medical equipment. Reduce risk of interference by keeping a minimum distance of 15cm (6 inches) between the phone and the device. Use the phone at your right ear. Do not carry the phone in your breast pocket. Turn off the phone if you suspect interference. For all medical devices, consult a physician and the manufacturer.

Driving

Some vehicle manufactures forbid the use of phones in their vehicles unless a handsfree kit with an external antenna supports the installation. Check with the vehicle manufacturer's representative to be sure that the mobile phone or Bluetooth handsfree will not affect the electronic systems in the vehicle. Full attention should be given to driving at all times and local laws and regulations restricting the use of wireless devices while driving must be observed.

GPS/Location based functions

Some products provide GPS/Location based functions. Location determining functionality is provided "As is" and "With all faults". Sony Mobile Communications Inc. does not make any representation or warranty as to the accuracy of such location information.

Use of location-based information by the device may not be uninterrupted or error free and may additionally be dependent on network service availability. Please note that functionality may be reduced or prevented in certain environments such as building interiors or areas adjacent to buildings.

Caution: Do not use GPS functionality in a manner which causes distraction from driving.

Emergency calls

Calls cannot be guaranteed under all conditions. Never rely solely upon mobile phones for essential communication. Calls may not be possible in all areas, on all networks, or when certain network services and/or phone features are used.

Flight mode

Bluetooth and WLAN functionality, if available in the device, can be enabled in Flight mode but may be prohibited onboard aircraft or in other areas where radio transmissions are prohibited. In such environments, please seek proper authorisation before enabling Bluetooth or WLAN functionality even in Flight mode.

Malware

Malware (short for malicious software) is software that can harm the mobile phone or other computers. Malware or harmful applications can include viruses, worms, spyware, and other unwanted programs. While the device does employ security measures to resist such efforts, Sony Mobile Communications Inc. does not warrant or represent that the device will be impervious to introduction of malware. You can however reduce the risk of malware attacks by using care when downloading content or accepting applications, refraining from opening or responding to messages from unknown sources, using trustworthy services to access the Internet, and only downloading content to the mobile phone from known, reliable sources.

Accessories

Use only Sony Mobile Communications Inc. branded original accessories and certified service partners. Sony Mobile Communications Inc. does not test third-party accessories. Accessories may influence RF exposure, radio performance, loudness, electric safety and other areas. Third-party accessories and parts may pose a risk to your health or safety or decrease performance.

Disposal of old electrical and electronic equipment
Electronic equipment and batteries should not be included as household waste but should be left at an appropriate collection point for recycling. This helps prevent potential negative consequences for the environment and human health. Check local regulations by contacting your local city office, your household waste disposal service, the shop where you purchased the product or calling a Sony Mobile Communications Inc. call centre. Do not attempt to remove internal batteries. Internal batteries shall be removed only by a waste treatment facility or trained service professional.

Disposing of the battery
Check local regulations or call a Sony Mobile Communications Inc. call centre for information. Never use municipal waste.

Memory Card
If the product comes complete with a removable memory card, it is generally compatible with the handset purchased but may not be compatible with other devices or the capabilities of their memory cards. Check other devices for compatibility before purchase or use. If the product is equipped with a memory card reader, check memory card compatibility before purchase or use.

Memory cards are generally formatted prior to shipping. To reformat the memory card, use a compatible device. Do not use the standard operating system format when formatting the memory card on a PC. For details, refer to the operating instructions of the device or contact customer support.

Warning!
If the device requires an adapter for insertion into the handset or another device, do not insert the card directly without the required adapter.

Precautions on memory card use

- Do not expose the memory card to moisture.
- Do not touch terminal connections with your hand or any metal object.
- Do not strike, bend, or drop the memory card.
- Do not attempt to disassemble or modify the memory card.
- Do not use or store the memory card in humid or corrosive locations or in excessive heat such as a closed car in summer, in direct sunlight or near a heater, etc.
- Do not press or bend the end of the memory card adapter with excessive force.
- Do not let dirt, dust, or foreign objects get into the insert port of any memory card adapter.
- Check you have inserted the memory card correctly.
- Insert the memory card as far as it will go into any memory card adapter needed. The memory card may not operate properly unless fully inserted.
- We recommend that you make a backup copy of important data. We are not responsible for any loss or damage to content you store on the memory card.
- Recorded data may be damaged or lost when you remove the memory card or memory card adapter, turn off the power while formatting, reading or writing data, or use the memory card in locations subject to static electricity or high electrical field emissions.

Protection of personal information

Erase personal data before disposing of the product. To delete data, perform a master reset. Deleting data from the phone memory does not ensure that it cannot be recovered. Sony Mobile Communications Inc. does not warrant against recovery of information and does not assume responsibility for disclosure of any information even after a master reset.

Loudness warning!

Avoid volume levels that may be harmful to your hearing.

FCC Statement for the USA

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions:

(1) This device may not cause harmful interference.

(2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Any change or modification not expressly approved by Sony may void the user's authority to operate the equipment.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Declaration of Conformity for 501SO

CE0682 ⓘ

The Product "501SO" is declared to conform with the essential requirements of European Union Directive 1999/5/EC Radio and Telecommunications Terminal Equipment Directive 3.1(a), 3.1(b) and 3.2. The Declaration of Conformity can be found on http://www.sonymobile.co.jp/product/SAR/doc/.

VCCIについて

本機は、VCCI自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合しており、適合マークを画面に電子的に表示しています。

暗証番号について

本機のご利用にあたっては、操作用暗証番号や交換機用暗証番号が必要になります。

操作用暗証番号：各機能を利用するときの暗証番号です。お買い上げ時は設定されていません。

交換機用暗証番号：ご契約時の4桁の暗証番号で、オプションサービスを一般電話から操作する場合などに必要な番号です。

- 交換機用暗証番号はお忘れにならないようにご注意ください。万一お忘れになった場合は、所定の手続きが必要になります。詳しくは、お問い合わせ先（→P.57）までご連絡ください。
- 操作用暗証番号や交換機用暗証番号は、他人に知られないようにご注意ください。他人に知られ悪用されたときは、その損害について当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

PINコード設定

PINコードとは、SIMカードの暗証番号です。
第三者による本機の無断使用を防ぐために使用します。
お買い上げ時は、「9999」に設定されています。

- PINコードの入力を3回間違えると、PINロック状態となります。その際は、PINロック解除コード（PUKコード）が必要となります。
- PUKコードについては、お問い合わせ先（→P.57）までご連絡ください。
- PUKコードを10回間違えると、SIMカードがロックされ、本機が使用できなくなります。その際には、ソフトバンクショップにてSIMカードの再発行（有償）が必要となります。

SIMカードをロックする

PINコードを有効にすることで、SIMカードを本機に取り付けた状態で電源を入れたとき、PINコードを入力する画面を表示するように設定できます。

1 ホーム画面で ⊞ →［設定］→［セキュリティ］→［SIMカードロック設定］

2 ［SIMカードをロック］→PINコードを入力→［OK］

PINコードを変更する

PINコードを有効にしている場合のみ操作できます。

1 ホーム画面で ⊞ →［設定］→［セキュリティ］→［SIMカードロック設定］

2 ［SIM PINの変更］→現在のPINコードを入力→［OK］

3 新しいPINコードを入力→［OK］→新しいPINコードを再度入力→［OK］

ソフトウェア更新

ネットワークを利用して本機のソフトウェア更新が必要かどうかを確認し、自動または手動で更新ができます。

- ソフトウェア更新には時間がかかることがあります。更新が完了するまで、本機は使用できません。
- ソフトウェア更新は電池残量が十分ある状態で操作してください。
- ソフトウェア更新は電波状態のよいところで、移動せずに行ってください。
- ソフトウェア更新中は、ほかの機能は操作できません。
- 必要なデータはソフトウェア更新前にバックアップすることをおすすめします（一部ダウンロードしたデータなどは、バックアップできない場合もあります）。ソフトウェア更新前に本機に登録されたデータはそのまま残りますが、本機の状況（故障など）により、データが失われる可能性があります。データ消失に関しては、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ソフトウェア更新を行うと設定の一部はお買い上げ時の状態に戻ります。
- ソフトウェア更新に失敗したときや中止されたときは、ソフトウェア更新を実行し直してください。
- 国際ローミング中は、ご利用になれません。
- ソフトウェア更新中は絶対にSIMカードを取り外したり、電源を切ったりしないでください。更新に失敗することがあります。
- ソフトウェア更新に失敗すると、本機が使用できなくなることがあります。その場合はお問い合わせ先（→P.57）までご連絡ください。

ソフトウェアを自動で更新する

更新ファイルを自動でダウンロードします。

1 **更新ファイルの情報を受信**

自動で更新ファイルのダウンロードが開始されます。

2 **注意事項の内容を確認**

3 **「今すぐ更新」**

ソフトウェア更新を実行します。
お買い上げ時には「自動更新設定」が有効になっているため、何も操作しないでソフトウェア更新の確認画面を終了した場合は、「更新時刻設定」で設定した時刻にソフトウェア更新が実行されます。

- 手動でソフトウェア更新を行う場合は、ホーム画面で ⋯ →［設定］→［端末情報］→［システムアップデート］→［ソフトウェア更新］→［ソフトウェア更新］→［はい］をタップします。
- ソフトウェア更新後に再起動しなかったときは、強制終了（→P.26）し、電源を入れ直してください。それでも起動しないときは、ソフトバンクの故障受付（→P.57）にご相談ください。
- 「自動更新設定」を有効／無効にするには、ホーム画面で ⋯ →［設定］→［端末情報］→［システムアップデート］→［ソフトウェア更新］→［自動更新設定］をタップし、［自動更新しない］／［自動更新する］をタップします。
- パソコンに接続して更新を行うこともできます。あらかじめパソコンに「ソフトウェア更新」を行うためのソフトウェアをインストールする必要があります。ソフトウェアのインストール方法などについては、次のホームページをご参照ください。
  http://www.sonymobile.co.jp/support/

保証とアフターサービス

保証について

本機をお買い上げいただいた場合は、保証書が付いております。

- お買い上げ店名、お買い上げ日をご確認ください。
- 内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間は、保証書をご覧ください。

・本機の故障、誤動作または不具合などにより、通話などの機会を逸したために、お客様、または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
・故障または修理により、お客様が登録／設定した内容が消失／変化する場合がありますので、大切な電話帳などは控えをとっておかれることをおすすめします。なお、故障または修理の際に本機に登録したデータ（連絡先／音楽／静止画／動画など）や設定した内容が消失／変化した場合の損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
・本機を分解／改造すると、電波法にふれることがあります。また、改造された場合は修理をお引き受けできませんので、ご注意ください。

アフターサービスについて

修理を依頼される場合、お問い合わせ先（→P.57）または最寄りのソフトバンクショップへご相談ください。その際、できるだけ詳しく異常の状態をお聞かせください。

- 保証期間中は保証書の記載内容に基づいて修理いたします。
- 保証期間後の修理につきましては、修理により機能が維持できる場合は、ご要望により有償修理いたします。

・アフターサービスについてご不明な点は、最寄りのソフトバンクショップまたはお問い合わせ先（→P.57）までご連絡ください。

主な仕様

Xperia Z5本体

サイズ（幅×高さ×奥行）	約72mm×約146mm×約7.3mm
質量	約154g
最大出力	2W（GSM：850／900MHz） 1W（GSM：1800／1900MHz） 0.25W（UMTS） 0.2W（4G：AXGP網） 0.2W（4G：LTE）
連続通話時間	約12時間（GSM） 約24時間（UMTS） 約14時間（4G：LTE）
連続待受時間	約580時間（3G） 約520時間（GSM） 約490時間（4G：AXGP網） 約500時間（4G：FDD-LTE網）
充電時間	SoftBank SELECTION Quick Charge 2.0対応 ACアダプタ（SB-AC12-HDQC）： 約130分 ACアダプタ（microUSB 1.8A）（ZTDAD1）： 約155分
ワンセグ視聴時間	約9時間
フルセグ視聴時間	約3.5時間（明るさ最大時） 約7.2時間（明るさ最小時）

内蔵電池

電圧	DC3.8V
使用電池	リチウムイオン電池
容量	2900mAh

使用材料

Xperia Z5本体

使用箇所	材質	表面処理
外装ケース（上下および側面、SIM カード／ SD カード挿入口カバー）、音量キー、カメラキー	アルミニウム合金	陽極酸化皮膜処理
外装ケース（4 コーナー）	ポリカーボネート樹脂	塗装処理
外装ケース（フレーム）	ナイロン樹脂（ガラス入り）	—（Graphite Black、Gold、Green） 塗装処理（White）
外装ケース（ストラップホール、ヘッドセット接続端子、microUSB 接続端子）	ナイロン樹脂（ガラス入り）	—
透明板（ディスプレイ）	強化ガラス	AFP処理
透明板（背面）	強化ガラス	AR処理＋AFP処理
透明板（フラッシュ／フォトライト）	アクリル樹脂	—
電源キー	エポキシ樹脂	塗装処理

TVアンテナケーブル（SODAB1）

使用箇所	材質	表面処理
接続プラグ（ボディー）、ケーブル、ヘッドセット接続端子（ボディー）	エラストマー樹脂	—
接続プラグ（金属部分）	黄銅	金メッキ

お問い合わせ先一覧

お困りのときや、ご不明な点などございましたら、お気軽に下記お問い合わせ窓口までご連絡ください。
電話番号はお間違いのないようおかけください。

■ ソフトバンクカスタマーサポート

総合案内

ソフトバンク携帯電話から 157（無料）
一般電話から 0800-919-0157（無料）

紛失・故障受付

ソフトバンク携帯電話から 113（無料）
一般電話から 0800-919-0113（無料）

IP電話などでフリーコールが繋がらない場合は、恐れ入りますが下記の番号へおかけください。

東日本地域	022-380-4380（有料）
東海地域	052-388-2002（有料）
関西地域	06-7669-0180（有料）
中国･四国･九州･沖縄地域	092-687-0010（有料）

■ スマートフォン テクニカルサポートセンター

スマートフォンの操作案内はこちら
ソフトバンク携帯電話から 151 （無料）
一般電話から 0800-1700-151（無料）

■ ソフトバンク国際コールセンター

海外からのお問い合わせおよび盗難・紛失のご連絡
+81-92-687-0025
（有料、ソフトバンク携帯電話からは無料）